

共に働き・暮らせる地域づくり — 支え合いのネットワークを拡げよう —

◆ 平塚市で始まった

就労準備支援事業

平塚市では今年3月から生活困窮者自立支援制度のメニューの一つである就労準備支援事業がスタートしました。

就労準備支援事業は、様々な事情で就労の機会を持てないでいる人に対し一般就労に向けた自立のための訓練を行う事業で、生活保護受給者や生活困窮に至るリスクの高い層の増加が背景にあります。平塚市では制度が始まった2015年時点では任意事業は学習支援事業のみでしたが、これ必須、任意併せて7つの事業に取り組むことになりました。

必須事業

- ・ 自立相談支援事業
- ・ 住居確保給付金の支給

任意事業

- ・ 就労準備支援事業
- ・ 家計改善支援事業
- ・ 一時生活支援事業
- ・ 子どもの学習・生活支援事業
- ・ 就労訓練事業

今回就労準備支援事業を担うことになったのは、ワーカーズ・コレクティブ協会・生活クラブ生協・湘南生活クラブ生協の3者による共同事業体で、ワーカーズ・コレクティブ協会にとつ

ては神奈川県内で4番目の取組となります。

6月5日行われた「*まちづくりユニット平塚」総会第2部では、中心となつて活動してこられたNPO法人ワーカーズ・コレクティブ協会副理事長の岡田百合子さんを講師に、「共生社会をめざして」と題し学習会を開催しました。



*まちづくりユニット平塚
市内の生活クラブ運動グループ9団体で構成。

ワーカーズ・コレクティブとは、雇う・雇われるの関係ではなく、メンバーがお金・知恵・時間・労力を持ち寄つて地域に必要なものやサービスを提供するという、女性を中心に約40年前に誕生した働き方です。その働き方を障がいのある人や若者、困窮状態にある人たちへ広げてきたことが2015年からスタートした生活困窮者自立支援制度と連動し、県内自治体（横浜、座間、湯河原）で事業受託するように

なったとのことです。

事業が対象とするのは、生活のリズムが崩れている、社会との関りに不安がある、就労意欲が低いなど、就労に向けた準備が整っていない、これまで支援が十分されてこなかった層で、就労体験や生活習慣の確立、地域活動への参加等、一人ひとりの状況や個性に合わせたプログラムづくりが行われます。

◆ 共生社会実現の鍵は市民 — 支え合いのネットワークを拡げよう —

4年前から就労準備支援事業に取り組んでいる座間（はたらつく・さま）では、地域の理解と共感の元、各種事業所に実習先が広がると共に、活動に参加する市民の輪も広がっており、そのことが支援プログラムの充実につながっています。6月には、社会への一歩を踏み出す場となるよう「みんなの居場所ここから」も開所されました。

市民の共感と参加の拡がり、制度を生かし、前進させています。

平塚の活動はスタートしたばかりですが、「はたらつく」の実践から学びながら、地域で共に働き・暮らすための提案につなげていきます。